

一辺固定矩形板の熱応力状態について

京都大学工学研究所 森 忠 次
 京都大学 大学院 小 林 昭 一
 関西電力 建設部 足 立 隼 夫

§ 1. 解 析 方 法

本研究では一辺が完全に拘束された矩形板の二次元熱応力問題の解析結果を述べる。矩形板の四辺の境界条件を満足する解を求めることは困難であるので、potential energy 最小の原理により変分問題として解いた。変分法により近似解を求める方法は種々あるが、ここでは偏微分方程式の積分を建立常微分方程式の積分に変換する L. V. Kantrovichの方法によった。¹⁾

図1示すような矩形板 A B C D (厚さ d, 辺 A D は固定) のみに $T(x, y)$ なる温度変化を生じ、平面応力状態にあるものとする。矩形板が原形を保つための応力は

$$\bar{\sigma}_x = \bar{\sigma}_y = -\alpha E T / (1-\nu) \quad (1)$$

であり、この応力状態に

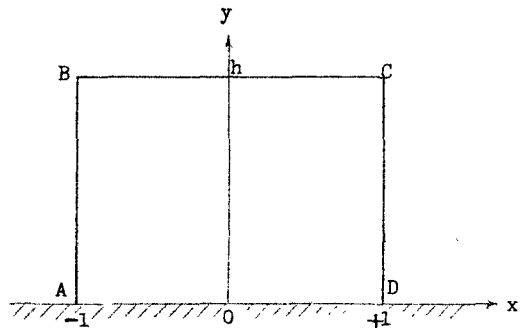
$$\left. \begin{aligned} \text{表面力 ; } p_x = p_y &= \alpha E T / (1-\nu) \\ \text{容積力 ; } X &= -\frac{\alpha E}{1-\nu} \frac{\partial T}{\partial x}, \quad Y = -\frac{\alpha E}{1-\nu} \frac{\partial T}{\partial y} \end{aligned} \right\} \quad (2)$$

によつて与えられる外力による応力状態を附加すれば其の応力状態を求めることができる。

$$X = -\frac{\partial \Omega(x, y)}{\partial x}, \quad Y = -\frac{\partial \Omega(x, y)}{\partial y}$$

とし、(2)式による応力をつぎのようにおく。

$$\left. \begin{aligned} \sigma_x &= \Phi_{yy}(x, y) = \phi_{0,yy}(x, y) + \Omega(x, y) + \sum_n f_n(x) g_n''(y) \\ \sigma_y &= \Phi_{xx}(x, y) = \phi_{0,xx}(x, y) + \Omega(x, y) + \sum_n f_n''(x) g_n(y) \\ \tau_{xy} &= -\Phi_{xy}(x, y) = -\phi_{0,xy}(x, y) - \sum_n f_n'(x) g_n'(y) \end{aligned} \right\} \quad (3)$$



図—1 矩形板および坐標

ここに、 ϕ_0 は (2式) に示された応力についての境界条件を満足し、 y — 一定なる断面における応力の合計が常に零なるものとする。 $g_n(y)$ は未知函数であり、 $f_n(x)$ は y — 一定なる断面での合力が常に釣合っていることを考え

$$f(\pm 1) = f'(\pm 1) = 0 \quad (4)$$

を満足する既知正規直交函数とする。この函数は G. H. Ervay の提案になるものである。²⁾

potential energy は

$$W = \frac{1}{2E} \int_0^h \int_{-1}^{+1} \left\{ \sigma_x^2 + \sigma_y^2 - 2\nu \sigma_x \sigma_y + 2(1+\nu) \tau_{xy}^2 \right\} dx dy \quad (5)$$

で表わされ、この式に (3式) を代入し、 $f(x)$ が直交函数なることを利用して、微小項を省略する
とつきの Euler の方程式ならびに自然境界条件が求められる。

$$g_n'''(y) - 2 \langle f_n' \cdot f_n' \rangle g_n''(y) + \langle f_n'' \cdot f_n'' \rangle g_n(y) = - \int_{-1}^{+1} \left\{ \Delta \Delta \phi(x, y) + (1-\nu) \Delta \Omega(x, y) \right\} x f_n(x) dx \quad (6)$$

$$\left. \begin{aligned} g_n'''(0) - (2+\nu) \langle f_n' \cdot f_n' \rangle g_n'(0) &= - \int_{-1}^{+1} \left\{ \phi_{0yy}(x, 0) + (2+\nu) \phi_{0xxy}(x, 0) + (1-\nu) \Omega_y(x, 0) \right\} x f_n(x) dx \\ g_n''(0) + \nu \langle f_n' \cdot f_n' \rangle g_n(0) &= - \int_{-1}^{+1} \left\{ \phi_{0yy}(x, 0) - \nu \phi_{0xx}(x, 0) + (1-\nu) \Omega(x, 0) \right\} f_n(x) dx \end{aligned} \right\} \quad (7)$$

ここに $\langle f_n^p \cdot f_n^p \rangle = \int_{-1}^{+1} f_n^p(x) \cdot f_n^p(x) dx$ である。(6) の一般解は

$$g_n(y) = e^{-\alpha_n y} (A_n \cos \beta_n y + \beta_n \sin \beta_n y) + e^{\alpha_n y} (C_n \cos \beta_n y + D_n \sin \beta_n y) + G_n(y) \quad (8)$$

となり、ここに $r_n = \alpha_n + i\beta_n$ は特性方程式の根であり、 $G_n(y)$ は (6) 式の特解である。

§ 2. 計 算 例

(A) $T = T_0$ (一定) の場合 $\phi_0 = \alpha E T_0 y^2/2$, $\Omega = 0$ となる。

(i) $h = \infty$: $C_n = D_n = 0$ であり、(7) 式の境界条件は

$$\left. \begin{aligned} -\alpha_n \{ (\alpha_n^2 - 3\beta_n^2) - K_n(2+\nu) \} A_n + \beta_n \{ (3\alpha_n^2 - \beta_n^2) - K_n(2+\nu) \} B_n \\ + \alpha_n \{ (\alpha_n^2 - 3\beta_n^2) - K_n(2+\nu) \} C_n + \beta_n \{ (3\alpha_n^2 - \beta_n^2) - K_n(2+\nu) \} D_n &= 0 \\ \{ (\alpha_n^2 - \beta_n^2) + K_n \nu \} A_n - 2\alpha_n \beta_n B_n + \{ (\alpha_n^2 - \beta_n^2) + K_n \nu \} C_n + 2\alpha_n \beta_n D_n &= -L_n \end{aligned} \right\} \quad (9)$$

ここに、 $K_n = \int_{-1}^{+1} f_n' \cdot f_n' dx$, $L_n = \int_{-1}^{+1} \phi_{0,yy} \cdot f_n dx$ である。

(ii) $h = \text{有限}$: (9)式の他に $y = h$ において $\sigma_y = \tau_{xy} = 0$ なるつぎの境界条件が成立する。

$$\left. \begin{aligned} & (e^{-\alpha_n h} \cos \beta_n h) A_n + (e^{-\alpha_n h} \sin \beta_n h) B_n + (e^{\alpha_n h} \cos \beta_n h) C_n + (e^{\alpha_n h} \sin \beta_n h) D_n = 0 \\ & - e^{-\alpha_n h} (\alpha_n \cos \beta_n h + \beta_n \sin \beta_n h) A_n - e^{-\alpha_n h} (\alpha_n \sin \beta_n h - \beta_n \cos \beta_n h) B_n \\ & + e^{\alpha_n h} (\alpha_n \cos \beta_n h - \beta_n \sin \beta_n h) C_n + e^{\alpha_n h} (\alpha_n \sin \beta_n h + \beta_n \cos \beta_n h) D_n = 0 \end{aligned} \right\} (10)$$

(B) $T = T_0 (h - y)$ の場合 $\phi_0 = \alpha E T_0 y (h - \frac{y}{3}) / 2$, $\Omega = 0$ となる。

境界条件はつぎの通りである。

$$\left. \begin{aligned} & -\alpha_n \{ (\alpha_n^2 - 3\beta_n^2) - K_n (2+\nu) \} A_n + \beta_n \{ (3\alpha_n^2 - \beta_n^2) - K_n (2+\nu) \} B_n \\ & + \alpha_n \{ (\alpha_n^2 - 3\beta_n^2) - K_n (2+\nu) \} C_n + \beta_n \{ (3\alpha_n^2 - \beta_n^2) - K_n (2+\nu) \} D_n = -M_n \\ & \{ (\alpha_n^2 - \beta_n^2) + K_n \nu \} A_n - 2\alpha_n \beta_n B_n + \{ (\alpha_n^2 - \beta_n^2) + K_n \nu \} C_n + 2\alpha_n \beta_n D_n = -L_n \\ & e^{-\alpha_n h} \cos \beta_n h \cdot A_n + e^{-\alpha_n h} \sin \beta_n h \cdot B_n + e^{\alpha_n h} \cos \beta_n h \cdot C_n + e^{\alpha_n h} \sin \beta_n h \cdot D_n = 0 \\ & - e^{-\alpha_n h} (\alpha_n \cos \beta_n h + \beta_n \sin \beta_n h) A_n - e^{-\alpha_n h} (\alpha_n \sin \beta_n h - \beta_n \cos \beta_n h) B_n \\ & + e^{\alpha_n h} (\alpha_n \cos \beta_n h - \beta_n \sin \beta_n h) C_n + e^{\alpha_n h} (\alpha_n \sin \beta_n h + \beta_n \cos \beta_n h) D_n = 0 \end{aligned} \right\} (11)$$

$\zeta \times \zeta$, $M_n = \int_{-1}^{+1} \phi_{0,yyy} \cdot f_n dx$ である。

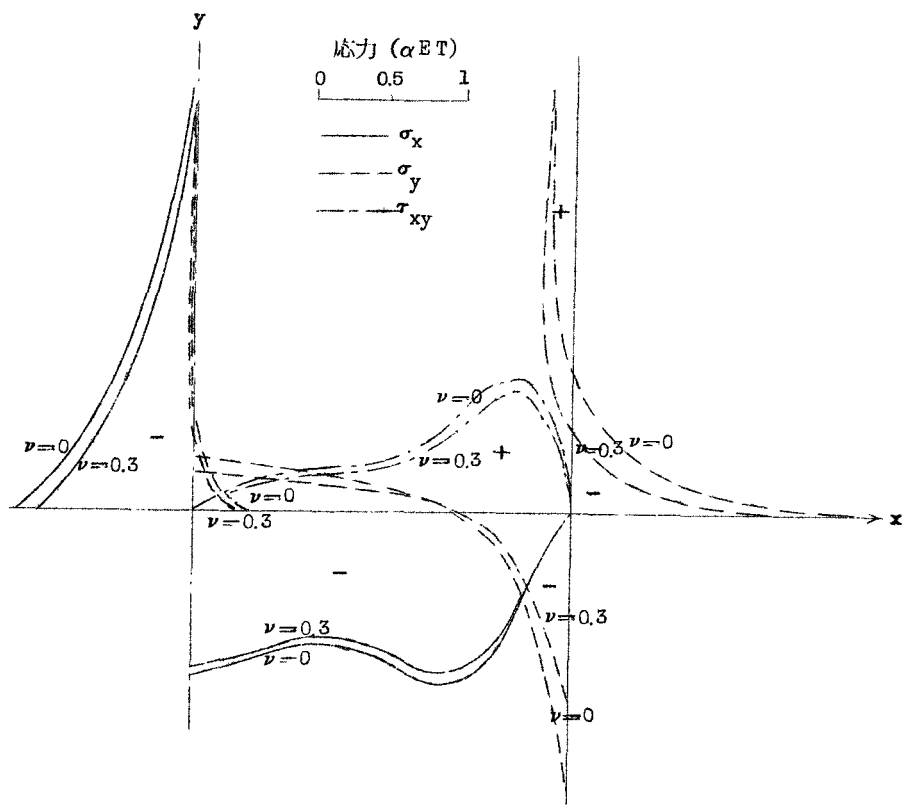
(C) $T = T_0 x$ の場合 $\phi_0 = -\alpha E T_0 x^3 / 6$, $\Omega = \alpha E T_0 x$ となる。

$h = \infty$ の場合には, $C_n = D_n = 0$ であり, 境界条件はつぎの通りである。

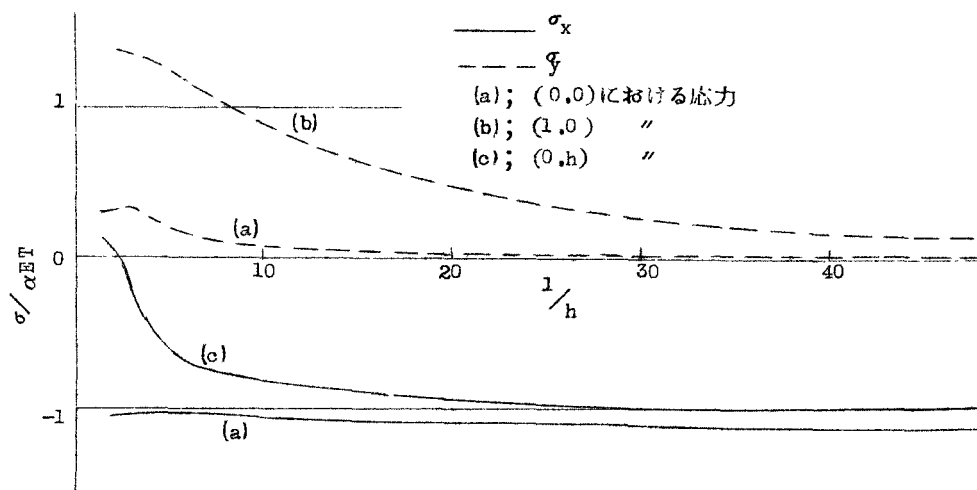
$$\left. \begin{aligned} & \alpha_n \{ (\alpha_n^2 - 3\beta_n^2) - K_n (2+\nu) \} A_n - \beta_n \{ (3\alpha_n^2 - \beta_n^2) - K_n (2+\nu) \} B_n = 0 \\ & \{ (\alpha_n^2 - \beta_n^2) + K_n \nu \} A_n - 2\alpha_n \beta_n B_n = -L'_n \end{aligned} \right\} (12)$$

$\zeta \times \zeta$, $L'_n = \int_{-1}^{+1} \{ \nu \phi_{0,xx} - (4-\nu) 2 E T_0 x \} \cdot f_n dx$ である。

以下に結果の一部を示す。



図一2 (A)の場合の応力分布



図一3 (A)の場合の主要点応力と高さとの関係

参 考 文 献

- 1) 森 忠次 ; 第 9 回応用力学連合講演会にて講演
- 2) G.Horvay ; Jourral of Applied Mechanics.vol120 (1953) ,
p.87.